



中村です！

庄原中学校の新築工事で床暖房工事をしました

少し前ですが、庄原中学校の新築工事で床暖房工事をしました。それぞれの教室に床暖房が入っています。床下にパイプを設置しそのパイプに温水を循環させ温める方式です。循環する温水をつくるのはペレットボイラー。このボイラーは木材の皮やは材、間伐材などを加工した「ペレット」を燃料に使います。油を燃やさない自然環境にやさしいボイラーです。

先輩の指導の下、工事をしたのですがパイプを床下に設置しそれを温水の流れを調整するヘッダーという物まで配管する工程がありこれが特に難しかったです。

庄原は寒い地域という事もありますが床暖房のある快適な環境で勉強ができる生徒が羨ましく思います。

自分もこんな教室で勉強したかったー（笑）



中村が工事をしています。
この工程が難しかった！

ペレットです。



こんにちは。三宅です。

いろは丸に暮末浪漫を感じる

今回は、旅行会社主催の日帰りバスツアーを利用し、福山の鞆の浦へ行ってきました。鞆の浦は、埋立て架橋計画問題があり、景観が変わる前に一度行ってみたいと思っていました。鞆の浦は、お寺や昔ながらの建物(蔵)等色々な史跡が立ち並び、散策時間が足りないほどでした。時間が足りなかった理由は、常夜燈(とうろう)の近くにある「いろは丸展示館」を見つけ1時間位そこにいたからです。（散策に許された時間は、2時間弱なのに・・・）

散策中に「いろは丸」と言う名前が目に入り、船好きの私は気になって展示館に入る事に。「いろは丸」は蒸気帆船で、イギリスで建造された船でした。

「いろは丸」の歴史を知らなかった私は、ビックリ。坂本龍馬と海援隊も乗っていた船と言う事。そして、1867年に紀州藩の軍艦・明光丸と衝突して沈没したという事を。

この展示館には、沈没した事や、潜水調査ののち、引き揚げられた遺物等を見る事ができました。

引き上げられた遺物は、100数年前の物と思える
いぐらじ保存状態も良く、それを見ながら昔に
思いを馳せていました。

思いがけず歴史の勉強ができましたが、まだまだ見ていない所が沢山あるので、今度は時間を
気にしないで行けるようツアーはやめようと思
いました。



▲いろは丸沈没状況の再現

▲対朝楼からみた景色

村田です



吉本新喜劇を見にいきました

先日、広島信用金庫の招待で頂いたチケットで、アルソックホールで行われた、吉本新喜劇に行ってきました。家内と娘と娘の友達4人で見にいったのですが、なぜか娘の友達は吉本新喜劇が大好きで毎週ビデオにとって見ているとか、変わった小学4年がいるものです。

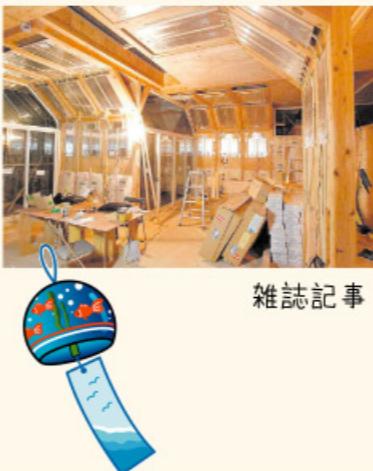
さてお芝居の方は川畠康史さん、桑原和男さん、島田珠代さんら出演でした。川畠さんらの元気いっぱいのセリフにはテレビのまんまで楽しく拝見させていただきました。私も学生時代よくテレビで見していましたがその当時は木村進さんや「くっさー」の岡ハ朗さんが出ていたのを思い出し「ごめん下さい、どなたですか…お入りください、ありがとうございます」の桑原和男さんはいつまでも元気で素晴らしいかったです。

2部ではバラエティーショーでパンクブービー、しずるが出演し子供たちも大喜びでしたが、それにもまして私たち夫婦の年代としては「A地点からB地点まで」のぼんちおさむちゃんや大助・花子が懐かしく感じたのは歳のせいでしょうか？しかしお笑いは面白くない時は客席は静かになっちゃうので大変な仕事ではありますね。



いつも『ばかばか新聞』のご愛読ありがとうございます。いよいよ7月になりましたが、暑さの苦手な汗かきにはつらい季節です。先日、設計事務所で打ち合わせをしているときに、壁からの輻射冷暖房の話になり、面白い記事が建築雑誌に載っていました。早速雑誌を調べ読んでみると、千葉県の物件で壁に床暖房のパネルを取り付けそれに冷水を流していました。みんな考えることは一緒だなと思い、弊社でも挑戦。

事務所の壁に温水パネルを貼り付けヒートポンプ式の冷温水発生器とつなげました。冷水を流したとき結露が見えるようにと、仕上げ材を省略しパネル面はむき出しです。壁が銀色に光り変な感じです。実際に体感しないといけないので私の机の後ろの壁に優先的に取り付け。また、その他に西面の西日で暑い窓の上下に取り付けました。



雑誌記事



私の机の後ろです。



西面の窓の周り。
効果を期待します。

さあ、夏の準備万端です。
結果は、まだお知らせします。

2012・7
Vol. 40

ばか
ぽか
ぽか
新聞

「子供にウケる科学手品」



おもしろそうな本があった。「子供にウケる科学手品」あーら不思議。紙コップに水を入れ火にかけてみると紙コップは燃えずにお湯が沸くよ、とある。燃えちゃうんじゃないの？という太郎とやってみた。

カセットコンロの上に水を入れた紙コップをセットして火を付けると・・・おー！なんと紙コップに火は付きません。しばらくすると本当にぐらぐらとお湯が沸いたじゃあーりませんか。解説によると紙の発火点は高温だが水は沸騰しても100°Cまでという事と、水は熱容量が大きいのでコンロの火の熱量をどんどん水が吸収してしまう。だから燃えないのだそうです。太郎びっくりの科学手品、大ウケでした。

水の熱容量が大きいといえばそれを利用したシステムが「イゼナ」の床暖房。ヒートポンプで暖めたぬるま湯を床下に貯めこみ熱容量の大きいお部屋にして暖房をします。あれも科学の力これも科学の力。なるほどと、ひとり納得の吉川でした。



上手くいくかな？



燃えずにグラグラ沸いています



ちょっと焦げています



科学手品、
大ウケでした



イゼナも科学の力です

床暖房のことなら私たちにおまかせ下さい!!

サン・フロアホーム株式会社

〒736-0083 広島市安芸区矢野東4丁目13-10

082-888-5137

FAX 082-888-5243

www.sanfuroa.com

info@sanfuroa.com